学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　　殿

【授業担当者】

所属/職名：歯学部口腔顎顔面外科／教授

氏　　名：中村　典史

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅤ
研修先	アイルランガ大学（インドネシア・スラバヤ）
研修期間	令和元年9月7日　～　令和元年9月18日

［研修の目的・概要］

目的：鹿児島大学の「進取の精神」に基づき、鹿児島大学歯学部では学術交流協定校に歯学部学生を派遣する海外歯科研修プログラムを平成28年度に初めて創設した。本プログラムは、歯学部の教育目標の一つである「国際社会においても卓越した貢献をなしうる歯科医師および歯科医学教育者・研究者の育成」、歯科医学教育のコアカリキュラムにおける、「歯科医学・医療・科学技術の進歩と社会の変化やワークバランスに留意して、歯科医師としてのキャリアを継続させる生涯学習者としての能力を身につける」に対応し、英語でコミュニケーションをとれるように意識付けするとともに、異文化や異なる価値観に接することで、従来のよりも視野の広い歯科医師を育成することを目標とする。

概要：海外研修に必要な知識について事前学習を行い、部局間学術交流協定校に派遣し、現地歯学部生と一緒に授業・実習を受けて学生間の交流を図る。帰国後、学内帰国報告会を開くとともに、研修後の講義により渡航研修で得た知識をもとに、今後どのように活かすかを検討する。

〔研修の成果〕＊事前学習も含む。地域のグローバル化や活性化に資する人材育成についての成果も記載してください。

2019年度はインドネシア、アイルランガ大学で10日間の研修を行った。事前に、鹿児島大学病院に短期研修に来ていたインドネシア大学およびアイルランガ大学のスタッフと会って、インドネシアの基本的事項や習慣を学んでの参加となった。今回参加した学生（歯学部５年生）は、アイルランガ大学歯学部で臨床コースの現地学生と共に行動し、講義、基礎実習を受けた。また、地方でのチャリティー活動にも参加した。

講義については、英語の翻訳を受けながら講義を受講した。講義内容は、学内では歯内治療学、小児歯科学、口腔薬理学の講義と口腔外科学の実習に参加した。アイルランガ大学の学生は講義の途中でも積極的に質問し、講義が終わってからも共に学生同士で勉強しあう機会を得て、学習意欲を高める機会となった。 また附属病院の見学では、主に学生の臨床実習の様子を見学したが、学生が実際に治療を行う姿を見学し、日本と海外の歯科臨床教育の違いを体感した。

また、学外の地域実習への参加では、スラバヤ市の幼稚園を訪問して、歯磨き指導や虫歯についての紙芝居による衛生教育に参加したり、保健センターでインドネシアと日本の口腔衛生状態について情報交換を行った。インドネシアでは齲蝕保有率が高く、学生が主体となって子供や母親に対して口腔衛生指導を行うなどして口腔保健への意識を高める活動を行っており、そのような活動に参加できたことは有意義であった。また、研修期間中に週末を使って、ジャワ島最東端に位置するバニュワンギでのチャリティー活動に参加した。それは、歯科の各診療科が年に1回歯科医療の行き届いていない地域に赴き、診療を行うというもので、小学生～高校生を対象に口腔内診査を行い、必要に応じて齲蝕処置やスケーリングを実施している様子を見学した。その際、小学生に対しては歯科医師が口腔保健に関する授業を行っており、自分たちも日本の文化を紹介するなど、地域の住民との交流も行った。海外で、英語での交流は初めての体験であったが、現地のライフスタイルも経験して、「グローバル化」というものは相手の国のことを十分に理解した上で行われなければ最大限活用されないものであると強く感じた良い経験であったと思われる。

〔今後の課題〕

研修期間中は、鹿児島大学で大学院を卒業した留学生が、面倒を見てくれたことから、生活全般で大きな支障はなかった。現時点では、鹿児島大学からアイルランガ大学へ研修に行く一方的なプログラムであるので、今後は相互の学生が海外研修をするプログラムへの発展、ならびに、それを実現化する経済的な支援策等について、検討する必要がある。